

令和8年7月1日

患者様各位

梅雨明けの便りが待たれる頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

祇園祭や天神祭など、7月を迎えると日本各地は本格的な夏祭りのシーズンに入ります。にぎやかな屋台や祭り囃子に心が弾む夏の夜ですが、なぜ日本の夏にはこれほど多くのお祭りがあるのでしょうか。



その理由は、日本の過酷な「夏の気候」と深く結びついています。

高温多湿な日本の夏は、疫病が流行し、害虫によって作物への被害が出やすい恐ろしい季節でした。医療が未発達だった時代、人々はこれらを「怨霊や悪霊の仕業」と考えたのです。つまり夏祭りには、災いをもたらす悪霊を追い払い、疫病退散や五穀豊穡を願う切実な祈り(神事)という意味が込められています。

また、夏祭りとともに夜空を彩る花火にも特別な意味があります。その起源は江戸時代に行われた水神祭にさかのぼり、大飢饉や疫病で亡くなった人々を弔い、悪疫退散を願って打ち上げられたと伝えられています。花火のまばゆい光と大きな音には、亡くなった方々への鎮魂と、人々の健康を願う祈りが込められていたのです。

一瞬の輝きに命の尊さを重ね、夜空を見上げる人々の横顔。現代の私たちが感じる夏祭りの高揚感とどこか切ない情緒の裏には、厳しい季節を共に乗り越えようとした、先人たちの祈りの歴史が今も脈々と息づいています。



今年の夏は、そんな思いにも少し心を寄せながら、祭りや花火を楽しんでみてはいかがでしょうか。

暑さが本格化する季節です。少しでも体調がおかしいと感じましたらスタッフへお声がけください。

今後も引き続き、「患者様第一」を心がけ、質の高い医療を提供すべく、診療に遺漏無きよう努めてまいります。何卒よろしく願いいたします。



医療法人社団茅ヶ崎セントラルクリニック

院長 仙賀 裕